

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	情報処理学科 (改正前)	夜・通信	160	160	
	情報処理学科 (改正後)	夜・通信	9	7	
	情報システム学科 (A I 情報システム専攻) (改正前)	夜・通信	280	240	
	情報システム学科 (A I 情報システム専攻) (改正後)	夜・通信	12	10	
	情報システム学科 (ゲーム専攻) (改正前)	夜・通信	310	240	
	情報システム学科 (ゲーム専攻) (改正後)	夜・通信	13	10	
	情報システム学科 (デザイン工学専攻)	夜・通信	10	10	
	情報システム学科 (3DCAD専攻) (改正前)	夜・通信	240	240	
	情報システム学科 (3DCAD専攻) (改正後)	夜・通信	12	10	
	情報システム学科 (高度情報システム専攻) (改正前)	夜・通信	310	240	
	情報システム学科 (高度情報システム専攻) (改正後)	夜・通信	14	10	

工業専門課程	情報システム学科 (A I 専攻) (改正前)	夜・通信	3 1 0	2 4 0	
	情報システム学科 (A I 専攻) (改正後)	夜・通信	1 4	1 0	
	情報システム学科 (メディカルS E 専攻) (改正前)	夜・通信	2 7 0	2 4 0	
	情報システム学科 (メディカルS E 専攻) (改正後)	夜・通信	1 4	1 0	
(備考) 情報システム学科(3年制)の「A I 情報システム専攻」は1, 2年生のみ在籍。「3 D C A D 専攻」は「デザイン工学専攻」へ専攻名を変更。「高度情報システム専攻」「A I システム専攻」「メディカルS E 専攻」は3年生のみ在籍。 「情報処理科」と「情報システム学科」は、改正後の教育課程の単位数と附則第2条(経過措置)に基づく改正前の教育課程の授業時数を記載している。 ただし、「情報システム学科(デザイン工学専攻)」は令和8年度より「情報システム学科(3 D C A D 専攻)」の名称変更による専攻であるため、改正後の教育課程の単位数を記載している。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.ivy.ac.jp/disclosure/practical-experience/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	2025.6.1 ～ 2029 年の定時評議委員 会の終結時まで	
非常勤	I T業界団体職員	2025.6.1 ～ 2029 年の定時評議委員 会の終結時まで	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ○教育課程(カリキュラム)の編成について 実施する授業科目、及びその講座内容については、各学科職員会議にて、講座の実施状況や学生アンケートに基づき改善検討を行い、新年度教育課程の策定を行う。策定された教育課程に基づいて授業計画を立てる。学科または専攻ごとに、「教育課程編成委員会」を実施し、その討議内容に基づいて、教育課程の策定を行う。授業計画書(シラバス)については、「I V Yシラバス作成ガイドライン」に従って、各教科担当教員が新年度前に完成させる。様式 及び 記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法などを統一している。 また、授業計画書(シラバス)は、新年度の入学式翌日に、学生に対してホームページ上で公表する。	
授業計画書の公表方法	IVY の HP で公開 https://www.ivy.ac.jp/disclosure/page-7693/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ○授業科目に対する成績評価 科目毎の評価方法は、授業計画書(シラバス)に記載した評価方法に基づいて行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じた総合評価とする。 講義・演習科目については、講座終了時に期末試験を実施する。その試験結果及び学修状況(履修状況やレポート提出状況)等に基づいて評価を行う。 また、実習実技科目においては、実習成果物及びその提出状況・実技試験及び学修状況などのいずれか、又はこれらを総合的に判断して評価を行う。実習成果物で未提出のものがあれば、評価はしない。 評価については、特に定めがない場合、100点を満点として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)の区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。 ○履修認定について 当該科目の必要授業時間数に出席し、期末試験に合格することをもって、当該科目を履修したとみなす。ただし、実習系の教科目については、学期中の課題の提出率が100%でかつ、担当教員が合格と認めたものは期末試験に合格したとみなす。 尚、補習等において追加課題などの措置を実施し、条件を満たした時点で評価・履修認定を行う。また、補習等を実施しても、条件を満たさない場合は不合格とし、履修認定はされない。 この内容については、学生便覧に記載するとともに、入学時のガイダンスにて説明を行う。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average：成績指標値) を用いる。 GPAは、成績評価のうち、Sは4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、Dは0点 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、履修科目の総単位数で除して算出する。 GPAの学生及び保証人への通知は、学期GPA及び通算GPAを各学期における成績と併せて通知する。ただし、学生が保証人の同意を得て保証人への成績通知を不要とする場合には、この限りでない。 本学卒業時の通算 GPA は、成績原簿に記録するものとする。 また、同様の内容を学生便覧に記載し、学生への説明会を行うとともにホームページにて公開する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧に記載するとともに、ホームページで公開する。 https://www.ivy.ac.jp/disclosure/page-8082/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) I V Yの教育目標は学生便覧にも記載しているように、次のようになっている。 ○教育目標 1. 専門的最高の知識・技術を身につけること。 2. 専門的資格を取得すること。 3. 希望にかなった就職をすること。 4. 社会人としてのマナーを身につけること。 尚、専門的技術については、教育課程を展開する中で達成できるように指導し、社会性の側面については、日々の生活の中で達成できるように指導している。 以上のことを踏まえた卒業要件を設定し、卒業判定については以下のように規定を定め適切に実施している。 ○ディプロマポリシーによる卒業認定要件 【課程修了・学位付与の要件】 〔学科共通〕 以下の①②をいずれも満たした場合、課程の修了と認め、専門士の称号を付与する ①全課程の修了に必要な総授業時数、3年制課程においては93単位以上、2年制課程においては62単位以上を履修していること ②試験・課題提出等により成績評価を行い、すべての教科目で合格していること 〔育成する人材像〕 【各学科共通】 1. 多様な社会の要請に対応できる人材や、新たな産業を創出する創造性豊かな人材 2. 自ら学び、自ら考え、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を備えた人材 3. セルフマネジメント力、チームマネジメント力、プロジェクトマネジメント力を身につけ、社会に貢献できる人材	

【A I 情報システム専攻】

4. プログラミング、情報セキュリティー、A I、I o T、クラウドなど高度なコンピュータ知識・技術を持つエンジニア
5. 現場で求められる実践力と幅広い知識を兼ね備えた即戦力となる人材

【ゲーム専攻】

4. I Tの知識と技術を持ったゲームクリエイター

【デザイン工学専攻】

4. 2 D C A D、3 D C A Dの操作方法を習得し、工学(機械・建築・設備)の知識を身に着けた様々なフィールドで活躍できるエンジニア

【情報処理科】

4. I C T技術をゼロからしっかり学び、幅広い分野で活躍できるI Tエンジニア

○学則による卒業認定要件

- ①3年制においては、93単位以上、2年制においては、62単位以上履修し、かつ授業科目の成績評価に基づいて、学校長が認定した者
- ②所定の修業年限以上在学し、所定の納付金が納められていること。

○卒業認定手続き

担任が卒業要件の充足状況を確認し、卒業判定会議において協議し、学校長が認定を行う。

卒業要件を満たさない者については、補習等により要件が満たされた時点で再判定し、学校長が認定を行う。

○教育目標及び卒業認定基準の公表

学生便覧に記載し、全学生に配布する。また、入学時のオリエンテーションにて、新入生に対して説明を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学生便覧とI V Yのホームページ
[https://www.ivy.ac.jp/disclosure/graduation-
certification/](https://www.ivy.ac.jp/disclosure/graduation-certification/)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には貸借対照表の写しを配布する
収支計算書又は損益計算書	https://www.ivy.ac.jp/disclosure/financial-information/
財産目録	希望者には貸借対照表の写しを配布する
事業報告書	希望者には貸借対照表の写しを配布する
監事による監査報告（書）	希望者には貸借対照表の写しを配布する

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報処理工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	6 2 単位	1 1 単位	4 7 単位	1 6 単位	0 単位	0 単位
			7 4 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		2 6 人	0 人	7 人	5 人	1 2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

1年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどのIT技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。
2年次以降は、コンピュータシステムの開発実習を通して、プログラマーやシステムエンジニアとしての必要な技術力を育成する。最後に、実践力を養うために、卒業研究として、グループでの作品を作り発表会を行う。ここで、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。
- ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。
- ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準： ①課程の修了に必要な単位数が 62 単位以上であること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級認定基準： 年間必要単位数が 31 単位以上修得したと認められるもの。
学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに 1 名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた三者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・ A O 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を 1 年次に 5 万円免除する。 ・ 推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を 1 年次 5 万円免除する。 ・ 指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を 1 年次 5 万円免除する。 ・ 特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を 1 年次 5 万円免除する。 ・ 親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹に IVY 卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2 年次学費から 10 万円免除。 ・ 有資格者補助金制度：提示する資格の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費を 1 年次に一部免除する。 5 万円免除の資格（基本情報技術者試験・日商簿記検定 2 級・全商簿記検定 1 級）、3 万円免除の資格（IT パスポート試験）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 （100%）	0 人 （0%）	12 人 （100%）	0 人 （0%）
(主な就職、業界等) 県内外の IT 企業、システム開発会社、製造業			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験(サーティファイ)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	2人	6.7%
(中途退学の主な理由) ・健康上の理由により、医師の指導のもと修学継続が困難となったため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。 中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (A I 情報システム専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	9 3 単位	1 2 単位	5 9 単位	3 5 単位	0 単位	0 単位
			1 0 6 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 2 5 人		1 9 人 (学科全体 111 人)	0 人	1 0 人	1 1 人	2 1 人	

(※現在 1 年生、2 年生が在籍中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I 技術者・C A D 技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、I T 技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びC A D オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。I T 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2 年次は更にゲーム・A I ・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。	
成績評価の基準・方法	
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率 80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業認定基準： ①課程の修了に必要な単位数が 93 単位以上であること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級認定基準： 年間必要単位数が 31 単位以上修得したと認められるもの。	
学修支援等	
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。	

○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた三者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・ＡＯ入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を１年次に５万円免除、２年次に５万円免除し、総額１０万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を１年次５万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を１年次５万円免除、２年次に５万円免除し、総額１０万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を１年次５万円免除、２年次に５万円免除し、総額１０万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹に IVY 卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。２年次学費から１０万円免除。 ・有資格者補助金制度：提示する資格の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費を１年次に一部免除する。 ５万円免除の資格（基本情報技術者試験・日商簿記検定２級・全商簿記検定１級）、３万円免除の資格（ＩＴパスポート試験）
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
— 人 （ — %）	— 人 （ — %）	— 人 （ — %）	— 人 （ — %）
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） ２年目のため、卒業生はいません。現在１年生および２年生が在籍しています。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。 中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (ゲーム専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	93単位	11単位	44単位	47単位	0単位	0単位
			102単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225人		53人 (学科全体111人)	0人	10人	11人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI技術者・CAD技術者等）を3年間で育成する。

入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。

2年次は更にゲーム・AI・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。

3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。

②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階（S, A, B, C, D）評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。

③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業認定基準：

①課程の修了に必要な単位数が93単位以上であること。

②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。

以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。

進級認定基準：

年間必要単位数が31単位以上修得したと認められるもの。

学修支援等

（概要）

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた三者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A O入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：提示する資格の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費を1年次に一部免除する。 5万円免除の資格（基本情報技術者試験・日商簿記検定2級・全商簿記検定1級）、3万円免除の資格（ITパスポート試験）
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	15人 (75%)	5人 (25%)
(主な就職、業界等) ゲーム制作会社、システム開発会社、情報通信業、サービス業			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
(備考)（任意記載事項） ・本人の適性及び就労準備状況を踏まえ、就労支援機関の利用へ進路変更1名 ・他4名は起業およびゲーム制作を前提とした活動へ変更			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56人	1人	1.8%
(中途退学の主な理由) 学業成績が著しく不良のため		

(中退防止・中退者支援のための取組)

中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。

中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (デザイン工学専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	9 3 単位	4 5 単位	4 4 単位	2 2 単位	0 単位	0 単位
			1 1 1 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
2 2 5 人		1 2 人 (学科全体 111 人)	0 人	1 0 人	1 1 人	2 1 人	

(※「3DCAD専攻」はR8年度より「デザイン工学専攻」へ名称変更)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI技術者・CAD技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S,A,B,C,D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S,A,B,C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①課程の修了に必要な単位数が93単位以上であること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級認定基準: 年間必要単位数が31単位以上修得したと認められるもの。

学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた三者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・AO入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：提示する資格の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費を1年次に一部免除する。 5万円免除の資格（基本情報技術者試験・日商簿記検定2級・全商簿記検定1級）、3万円免除の資格（ITパスポート試験）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) CAD利用技術者試験			
(備考)（任意記載事項） 名称変更により、3DCAD専攻で卒業生がおります。 ※3DCAD専攻の欄で表示しております。			
中途退学の現状			
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率	
0人	0人	0%	

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)

中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。

中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (３ＤＣＡＤ専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼間	９３単位	４５単位	４４単位	２２単位	０単位	０単位
			１１１単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
２２５人		１７人 (学科全体 111 人)	０人	１０人	１１人	２１人	

(※「3DCAD専攻」はR8年度より「デザイン工学専攻」へ名称変更)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI技術者・CAD技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験(受験条件:出席率80%以上)に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①授業時間数が2400時間以上93単位以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級認定基準: 年間事業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた三者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・AO入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 機械設計業、設備設計業、測量設計業、建設会社			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) CAD利用技術者試験、技能検定（機械・プラント製図）、建築CAD検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。 中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (高度情報システム専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	93単位	12単位	59単位	35単位	0単位	0単位
		106単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225人		3人 (学科全体111人)	0人	10人	11人	21人	

(※現在 3年生のみ在籍中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI技術者・医療SE・CAD技術者等）を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
（概要） ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業認定基準： ①授業時間数が2400時間以上 93単位以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： 年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内外のIT企業、システム開発会社、システム保守運用会社			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	1人	5.6%
(中途退学の主な理由) 学業成績が著しく不良のため		
中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。 中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (ＡＩシステム専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼間	９３単位	１２単位	６０単位	３４単位	０単位	０単位
			１０６単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
２２５人		６人 (学科全体 111 人)	０人	１０人	１１人	２１人	

(※現在 3 年生のみ在籍中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I 技術者・医療S E・C A D 技術者等)を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、I T 技術 (コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等) の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びC A D オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。I T 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2 年次は更にゲーム・A I ・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。
成績評価の基準・方法
(概要) ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験 (受験条件: 出席率 80%以上) に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業認定基準: ①授業時間数が 2400 時間以上 93 単位以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準: 年間授業時数 800 時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等
(概要) ○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。 ○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。 ・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。 ・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除 ・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	3人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内のIT企業、システム開発会社、家電量販店			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
中退防止・中退者支援のための取組 中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。 中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科 (メディカルSE専攻)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	93単位	55単位	89単位	42単位	0単位	0単位
			186単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
225人		1人 (学科全体110人)	0人	10人	11人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI技術者・医療SE・CAD技術者等）を3年間で育成する。 入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。 2年次は更にゲーム・AI・医療情報・設計の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。 3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。	
成績評価の基準・方法	
（概要） ①当該科目の必要時間数に出席し、期末試験（受験条件：出席率80%以上）に合格することをもって科目を履修したとみなす。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 卒業認定基準： ①授業時間数が2400時間以上 93単位以上であり、期末試験に合格すること。 ②修業年限以上の年限在学し、納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： 年間授業時数800時間以上履修しており、期末試験に合格すること。 尚、進級基準が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。	

学修支援等	
(概要)	
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。	
○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。	
○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。	
・A0 入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。	
・推薦入学生支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除する。	
・指定校特待生入学支援：入学願書提出時の申請により、学費を1年次5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。	
・特別奨学生入学支援：筆記試験合格者を対象に、学費を1年次に5万円免除、2年次に5万円免除し、総額10万円免除する。	
・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。	
・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポート等国家資格試験の合格証書のコピーを入学願書提出時に、添付・申請することにより、学費一部免除	
・大学等新卒者補助金制度：大学等（大学・短大・専門学校）卒業後2年以内、または卒業見込みの者で入学願書提出時の申請により、学費を1年次10万円免除する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 医療機関、調剤薬局、医療システム保守会社			
(就職指導内容) マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応三者面談、受験時面接指導 キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者試験、医療情報技師能力認定試験、医療事務技能検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	%

(中途退学の主な理由)

中退防止・中退者支援のための取組)

中退防止：随時、担任による二者面談、本人及び保護者を交えた三者面談、スクールカウンセラーの活用。

中退者支援：キャリアカウンセラーとの面談、リクルート課を交えた退学後の進路相談および確認。

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報システム学科	150,000 円	620,000 円	430,000 円	検定料 15,000 円
情報処理科	150,000 円	620,000 円	430,000 円	検定料 15,000 円
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Y のホームページ https://www.ivy.ac.jp/disclosure/page-788/		
第三者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価委員は、業界団体・学術関係・企業委員・卒業生からの 5 名で構成する。 評価項目 学校関係者評価委員に、①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守、⑩社会貢献・地域貢献の観点について、状況の説明や様々な取組み事項の説明と自己点検評価の説明をした後、各委員より、学校評価を提出してもらう。 評価結果の活用 項目毎に改善策を検討し、翌年度の目標設定や取組みに反映する。 具体的には、さらなる業務の効率化や教員に対する先進的な知識・技術の研修会を設ける。また、卒業生との繋がりを強固にし、卒業後の活動の把握と支援を行うよう努力する。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
公益財団法人 研究所 理事	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 1 0 年 3 月 3 1 日	有識者 (業界団体)
大学等高等教育機関 講師	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 1 0 年 3 月 3 1 日	有識者 (学術関係)
企業 関連業務部長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 1 0 年 3 月 3 1 日	企業委員
企業 代表取締役	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 1 0 年 3 月 3 1 日	企業委員
企業 代表取締役社長	令和 8 年 4 月 1 日～ 令和 1 0 年 3 月 3 1 日	企業委員・卒業生
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Y のホームページ https://www.ivy.ac.jp/disclosure/evaluation-c/		
(備考)		
「第三者評価の基本方針」、「第三者評価の委員」、「第三者評価の公表方法」の各欄には、学校関係者評価に関する情報を記載している。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

I V Yのホームページ <https://www.ivy.ac.jp>